

生態系に配慮した 森林資源の保全と利用のための 実証的研究

標高データの
ゾーニング

220ha

調査スキル向上の
ための研修

5回

活動の全体目標に
対する達成度

30%

課題

林業等において、森林生態系への適切な配慮がないまま大規模に間伐等が実施されている(年間約50万ha)。森林生態系の保全と持続的利用のためのルール作りが課題。

活動内容

生態系に配慮した森林資源の保全と利用である「環境林業」を試行、「森林資源の保全と利用のための手順」を発展的に修正するべく活動を実施。具体的には、①保護林等の既定保全地域の把握。②集水域管理のための水域の把握。③生物多様性評価のための植生調査、フィールドサインの調査、自動カメラによる撮影等を実施。また、生物多様性の評価法としてJBIBの「土地利用通信簿」等を検討。人材育成についても検討を行った。



利賀小学校で森を守る
フォレスターを紹介！

今後の課題

- 生物多様性や水土の保全といった公益性を損なうことなく、利用度の高い資源の質と量を高めていく「環境林業」の技術と知見の蓄積。
- 費用負担の仕組みづくりのための流域企業等との情報共有。

成果と工夫した ポイント



成果

モデル事業を実施予定の森林において、広葉樹の植生調査等を10カ所で行ったなど、持続的な利用のための森林情報が蓄積できた。また、活動の実務や5回の研修等を通じてスタッフの調査技術等のスキルが向上した。

工夫

お手本のない「環境林業」を実現するために、選り抜いた各分野の専門家に直接会って、話を聞くよう努めた。